

諸 行 動・諸会議名	運輸労連 第23回セメント生コン・タンクローリー輸送部会
開 催 日・実 施 日	2017年06月11日(日)～12(月)
開催場所・実施場所	福井フェニックスホテル
内 容	①業種が抱える課題について ②各単組の課題や問題点について ③その他
出 席 者・行 動 者	阿部健次郎(川崎運送労働組合) 秋田谷純一・菊池 陽一(楠原輸送労働組合) 高嶋 和人・若林 英明(新栄運輸労働組合) 浅井 義昭(丸全昭和運輸労働組合) 望月 博巳(県連)

福井県福井市「福井フェニックスホテル」にて、第23回セメント生コン・タンクローリー輸送部会が開催された。今回は、ご当地福井県連より2組合1機関7人の出席を含み、全体で16組合3機関31名が出席した。神奈川県県連からは4単組1機関7人が出席した。



今回は、生コン輸送の業務を行っている組合よりいくつかの質問がされ、実態報告と意見交換がされた。

生コンの実態として、各地区ごとに生コン事業者が協同組合を作り、協同組合が窓口になって建設会社などに販売をし、その価格も協同組合が決定する。加盟する生コン事業者には生産・販売シェアを割り当てる。このため価格の高い地域と低い地域では、労働賃金にも格差が生じている。実態として、生コン資材状況を見ると広島県の14950円と福岡県の9950円の差は5000円もの格差が生じている。

今回初参加の福井宇部生コン労働組合より、賃金体系や働き方などの実態が報告され、現在は新幹線工事でもここ数年は仕事が忙しく人手が足りない。しかし、その事業がなくなったときに人員が余ってしまうので、高齢の方に依存するしかない状態。と述べていた。

主な意見交換

- ・ 定期昇給制度の実態について
- ・ 契約の書面化について
- ・ 定年延長について
- ・ 65歳からの働き方について
- ・ 人手不足の対策について

ドライバー不足の問題は、全国同様にドライバーの地位を優位に展開させるのが今！ 人手不足をプラスの材料として取り組むべきではないか。

65歳を過ぎて年金だけでは暮らせないとするならば、運輸労連加盟の労働組合としてスケールメリットをいかさなければいけない。などの意見があがっていた。

翌日 12 日(月) 2 日目が開催されました。
懸案事項になっていたいくつかの要請に対しての進捗状況の報告がされた。

意見交換では「消防法で危険物取扱車両では、駐停車 2 時間までとなっている。現在のトラックは安全装置が進んでいる。合わせてドライバーへの教育も断然に進んでいることから、4 時間の駐停車ができるよう取り組んでもらいたい。また、イエローカードについては、現状が企業の努力義務では解決できない問題になっている。安全性を全面に出した取り組みをお願いしたい。」などの意見が上がっていた。



意見交換

- ・ 有給の取得率
- ・ ETC2.0 の活用について
- ・ 36 協定、特別条項について

有給の取得率は各企業ともに低い。特に事務職員が取りづらい環境になっている。半休が取れるようになりかなり改善傾向にあるものの、働き方を考えるとリフレッシュ休暇などの導入が必要。

36 協定については、影響する範囲が全ての労働者であることから、慎重に締結しなければいけない。一度、学習会を開催する。などの意見も上がっていた。

各出席者から

6 月 11 日～12 日に福井フェニックスホテルにて「第 23 回セメント生コン・タンクローリー輸送部会」が開催されました。全体参加者は 31 名の中、神奈川県連からは 7 名が出席しました。

座長に太平洋陸送労働組合の小椋執行委員長が選出され、一日目は、ご当地福井県連の平井書記長と県内で生コン業務をしている労働組合を中心に意見交換をおこないました。

二日目は「大型・特殊車両に係わる最近の法令・通達改正状況」についての報告がされました。

二日間の話で共通した事は、業務の内容や大小労組、また働く場所や内容は違えど、「長時間労働」「低賃金」「人手不足」の問題に突き当たってしまった。

次に神奈川県連・書記次長より「36 協定についての各労組の取り組み方について聞かせて頂きたい」との意見があり、各労組の運転手と事務員・荷役作業員の対応について報告があり、それぞれの単組の取り組み方について、様々な意見交換が行われました。

長時間労働・低賃金・人手不足のひとつひとつの解決案を見つける事は出来ても、そこに積み卸し荷主の存在、また運送業者に対する運輸費＝コスト(付帯作業込み)と考える為に問題に対して直球で進める事は難しく、すべてが絡み合った状況の中で、労働組合としては正論を掲げて交渉をする中で「36 協定」は大きな武器になる事を改めて考えさせられました。

川崎運送労働組合 阿部健次郎

一日目は福井県の地場で生コン関連の福井宇部生コン労組の役員 5 名と山田組労組役員 2 名と福井県連平井書記長にもご参加頂いて、総勢 31 名で業界や単組そして福井県での現状や問題点について討議、意見交換が活発になされました。

二日目は部会メンバーを中心に、労連本部提供の業界紙や特車申請の改正点についての資料を参照しながら意見交換を行い、最後に神奈川県連望月書記次長から事前提案されていた 36 協定について、最近の長時間労働問題と関連する問題点や労働組合としての対応策について討議しました。

特に 36 協定の現状といいますか惨状と、長時間労働や休日取得の少ない運輸産業において、労働組合として今後どのように長時間労働を是正するのかについて色々な意見が出されました。

私なりに意見集約したとすると、

- ①人材不足の解消と若年層の確保の為には賃金や休暇だけに留まらない産業としての魅力が必要であること。
- ②長時間残業を前提とした賃金ではなく、基本給部分を底上げしなければ長時間労働の是正は不可能であること。
- ③36 協定に労働組合として押印することの重大性を改めて認識し、労働組合としての責任を自覚し、経営側への働きかけを強めること。
- ④半休制度やフレックスについてもっと検討すること。
- ⑤労働基準監督官の是正勧告にはバラつきが多く、監督官のスキルの平準化等を労連本部として関係省庁に働きかけて欲しいこと。

等であったのではないかと思います。

業種別部会では様々な地域の単組が意見交換できる場として今後も有益であり、各地での開催時にはもっと地場の組合が参加されると良いのではとの感想を持ちました。

丸全昭和運輸労働組合 浅井 義昭

1 日目は北陸の方々中心のセメント生コンの議題となりましたが、どこの地方でも人手不足・若手不足は共通の課題と改めて感じました。今後数年は新幹線工事が進んでいる為、仕事量もあるようです。一社では、年金受給者を積極的に採用しているとのこと。新幹線工事が終了するまでの一時的な採用。その後はとても不安を感じているようでした。

2 日目はタンクローリー中心に進められました。

数回前に要望しておいたタンクコンテナの許可等の簡素化について、現状の報告等してもらいました。簡単には解決出来ない問題だとは思いますが、少しでも良い方向になる様願っております。

遠い福井県での開催の為、移動で疲れてきている方がおられました。その方の為にも近場での開催を希望したいと思います。東京の方でしたが…

新栄運輸労働組合 若林 英明

6 月 11～12 日第 23 回セメント生コン、タンクローリー輸送部会に出席してきました。

初日には福井県連に加盟されている 2 つの生コン会社で働く労組さんがみえていました。

その事もあって初日は生コンがメインの協議になりました。印象的だったのは給料体系で基本部分がずいぶん良さそうだなと感じました。「歩合の部分が非常に少なく(0に近い)、時間外も少ない。頑張りがいあんまり無い。」と述べていました。

二日目にはローリーや特車関係について意見交換がされ、労働時間から36協定の話になりました。

1ヶ月の労働時間が293時間までがそもそもおかしい。293時間働くとなるとその月の残業は100時間を越えてくる訳であって、過労死認定ラインになってしまう・・・運輸労連の方針である1ヶ月275時間、年間3300時間に早急にせざる得ない状況であり取り組みを進めるべきと感じました。

またトラックドライバーの長時間労働の原因の1つである荷待ち時間もあると思います。荷待ち時間の削減や労働時間として扱われていない部分があるのも実態だと思います。

毎年結ぶ36協定に書いてある意味を理解する事が必要だし、結ぶ時、どのようなことに気を付けるべきなのか学習会を開く事も必要だとの意見も上がりました。

私としても大賛成でぜひ勉強したいと感じました！また、ヤマト運輸や佐川急便の件もありますし運輸業界が変わる時がきていると感じました。

楠原輸送労働組合 菊池 陽一



番外！ 『ストップ！児童労働！』2017 キャンペーン

